

# 日中両言語におけるとりたて表現の名詞化機能の対照研究<sup>1</sup>

## A Contrastive Study of Nominalizing Functions of Focus Expressions in Japanese and Chinese

李 哲

Li Zhe

This article focuses on the nominalizing functions of focus expressions in Japanese and Chinese. Focus expressions in both Japanese and Chinese languages have a nominalizing function. However, unlike those of Japanese, Chinese focus expressions cannot convert a variety of verbal and adjectival phrases into nominal ones, and therefore the nominalizing function is not as productive as in Japanese. In both Japanese and Chinese, adjectives that semantically denote relationships between humans, which syntactically have nominal as well as adjectival properties, tend to be target of the nominalization. Both languages have lexical nominalization and syntactic nominalization, but Japanese strategy is morphologically marked while Chinese one is unmarked. In addition, morphological rule is dominant in Japanese nominalization whereas syntactic one in Chinese nominalization.

キーワード： とりたて表現，名詞化，語彙的名詞化，統語的名詞化

Keywords: Focus expressions, Nominalization, Lexical nominalization, Syntactic nominalization

### 1. はじめに

本稿は、日本語と中国語におけるとりたて表現の名詞化機能について考察する。日本語のとりたて表現によってとりたてられる要素には、名詞、動詞、形容詞など様々なものがある。そのうち、最もとりたてられやすいのは名詞である。名詞以外の成分、例えば動詞、形容詞、形容動詞<sup>2</sup>がとりたてられる場合には、以下のような例文がある。

---

<sup>1</sup> 本研究は中国教育部人文社会科学研究基金プロジェクト(21YJC740048)の研究成果の一部である。本稿の内容は「東アジア国際言語学会第10回大会(2023年2月オンライン形式)」における口頭発表に基づいたものである。

<sup>2</sup> 本稿でいう「形容詞」「形容動詞」は「イ形容詞」「ナ形容詞」とも呼ばれる。「イ形容詞」と「ナ形容詞」を合わせて「形容詞」という上位の分類をなすとみなす研究もある。本稿は「形容詞」と「形容動詞」に分けて論じる。

- (1) 口うるさく言うばかりが、しつげではない。 (日本語記述文法研究会(編)2009:13)  
(2) 彼が、頭がおかしいなんて、信じられません。 (『十津川警部の挑戦』)

とりたて表現にはとりたて助詞ととりたて副詞などがある。(1)における「ばかり」と(2)における「なんて」のようなとりたて助詞のとりたてる要素は基本的にその直前に位置する。(1)では、限定とりたて助詞「ばかり」によってとりたてられる要素は動詞性要素「口うるさく言う」で、「ばかり」は限定とりたての機能と同時に、「口うるさく言う」を名詞化する機能を果たしている。名詞化された「口うるさく言う」は文の主語である。(2)における評価とりたて表現「なんて」のとりたてる核心要素は直前の形容詞「おかしい」である。「なんて」によって「彼が、頭がおかしい」がとりたてられる同時に、名詞化されてから、「信じられません」の目的語として現れる。

このように、日本語とりたて表現の中には、「名詞化」という機能を持っている形式がある。名詞化(nominalization)は体言化<sup>3</sup>と呼ばれることもあり、本来動きやプロセスのあるものを「名詞」として扱い、あるいは「名詞」に変換してしまうもの。日本語記述文法研究会(編)(2009:12)によると、「だけ」「ばかり」「くらい」「なんて」「など」が述語をとりたてる場合、とりたての機能と同時に、述語を名詞化する機能を果たす。実際に、述語だけではなく、上例(1)(2)が示すように、主語や目的語の位置に現れる用言性要素もとりたて表現によって名詞化されることがある。

また、用言をとりたてる時の形式から考察すると、(1)(2)と形式が異なる以下のような例文もある。

- (3) 会ってから、喫茶店探しだけで、かなり時間がたっている。 (『雪が降る』)  
(4) 弟は子どものころ、泣いてばかりいた。 (日本語記述文法研究会(編)2009:12)  
(5) 自分が疲れてたら、人にやさしくなんてできない。 (『人間の歴史を考える』)  
(6) 山本さんはイルカが哺乳類であることもも知らなかった。  
(記述文法研究会(編)2009:11)

(3)と(4)は動詞をとりたてる例で、動詞を連用形にしてからとりたて表現を後続する。(5)においても、形容詞「やさしい」が連用形の「やさしく」に変換されてからとりたてられる要素になる。(6)における用言性要素「イルカが哺乳類である」は形式名詞「こと」によって名詞化されてからとりたて表現「も」のとりたてる要素になるのである。

<sup>3</sup> 鄭聖汝・柴谷方良(編)(2021)、鄭聖汝(2021)によれば、「文法的体言化(grammatical nominalization)」は「体言基盤用言化(nominal-based nominalization)」と「用言基盤体言化(verbal-based nominalization)」に分かれる。本稿は「用言基盤体言化」に相当する概念としての「名詞化」にしか触れない。

一方、中国語とりたて表現も日本語と同じように用言性要素をとりたてることができる。とりたて表現によっては、用言性要素を名詞化する機能をもっているものがある。

- (7) 什么 希望 不 希望, 都 是 梦想 而已。 (微博 BCC)  
 (なんか 希望する ない 希望する すべて は 夢 終助詞)  
 「希望するかしないかなんか、ただの夢だ」
- (8) 连 快乐 都 感受 不 到。 (微博 BCC)  
 (PREP 楽しい さえ 感受する ない 結果補語)  
 「楽しささえ感受できない」

(7)では、評価とりたて表現“什么”は動詞“希望不希望”(希望する、希望しない)をとりたてている。“什么”は評価とりたての機能と同時に、動詞性要素“希望不希望”(希望する、希望しない)を名詞化し、文の主題に充当する。(8)では、極端とりたて表現“连…都”によって、形容詞“快乐”(楽しい)がとりたてられている。“连…都”も極端とりたての機能と同時に、形容詞“快乐”(楽しい)を名詞化する機能を果たしている。“连…都”によって名詞化された“快乐”は“感受”(感受する)の目的語である。

以上の分析では、日中両言語のとりたて表現はいずれも用言性要素をとりたてているが、名詞化の種類などにおいて、それぞれ異なる性質を示している。日本語記述文法研究会(編)(2009)、福田・建石(編)(2016)などはとりたて表現の名詞化機能について多少触れたが、系統的な研究が必要である。日中両言語のとりたて表現の名詞化機能についての対照研究は管見の限り、ほとんど見られない。

本稿の目的は名詞化機能を持っている日中両言語のとりたて表現を明らかにしたうえで、その名詞化のタイプを考察するものである。本稿 2 節からの構成は以下の通りである。まず、第 2 節と第 3 節では、それぞれ日本語と中国語の名詞化機能を持っているとりたて表現を明確にする。次に、第 4 節では、とりたて表現にかかわる名詞化のタイプと優先性を分析する。最後は、日中両言語のとりたて表現の名詞化に関連する各要素を総合的に対照してその異同を明らかにする。

## 2. 日本語とりたて表現の名詞化機能

松瀬(2021:128)によると、名詞化は、従来、名詞以外の品詞である動詞や形容詞を名詞として用いる際の語形変化を指すのに用いられてきた。たとえば、日本語の名詞「美しさ」が形容詞「美しい」から、あるいは、英語の名詞(construction)が動詞(construct)から派生される際に、接尾辞「さ」や“-ion”が付加される現象を指す。また、接尾辞なしで、品詞性を名詞に変えるものもあり、日本語の「踊り」「問い」では動詞の連用形を名詞として

使う。そのほかにも、益岡(1997)の指摘しているように、「の」「こと」のような形式名詞が「文法的名詞化辞」と位置付けられる。

とりたて表現には名詞化機能の持っている表現もあれば、持っていない表現も存在している。日本語とりたて表現の形態は豊富で、従来の研究では、とりたての意味によって分類され、主に対比とりたて(「は」)、限定とりたて(「だけ」、「しか」、「ばかり」「ただ」)、極端とりたて(「さえ」、「まで」、「も」)、累加とりたて(「も」)、評価とりたて(「なんか」、「なんて」、「など」)などの典型的なものがある。

本稿は日本語とりたて表現の意味分類を基準にして中国語とりたて表現を対照研究する。コーパスにおけるとりたて表現の運用実態への観察によると、中国語とりたて表現の形態は日本語のほど豊富ではなく、主に限定、極端、累加、評価の機能を行っている。したがって、本稿は以上四つの種類から日中両言語とりたて表現の名詞化機能を対照する。

## 2.1 日本語限定とりたて表現の名詞化機能

限定とりたて表現にはとりたて助詞とりたて副詞がある。とりたて副詞もとりたて助詞も用言性要素をとりたてることができるが、名詞化機能の持っているものと持っていないものがある。さらに同じとりたて表現が用いられていても、名詞化されやすい品詞類と名詞化されにくい品詞類がある。

- (9) […] 順序立って答えるだけの準備が自分のなかにも用意されていないことに気付いて狼狽する。(『中村真一郎小説集成』)
- (10) […] 菓子を食べながら顔を見合わせてはほほ笑む表情には、こぼれるばかりの愛嬌がありました。(『北越雪譜物語』)
- (11) 当時の女性への教養で、実家や世間への影響を考えると、我慢するしかないのです。(『心晴朗なれど波高し』)
- (12) ただ誘われるのを待っているだけではありませんか。(『なぜか「モテる女」の共通点』)
- (13) 単に閉じるのではなく、メモリからアンロードします。(『Windows プログラミングテクニック』)

動詞をとりたてる(9)~(13)では、(9)の「だけ」と(10)の「ばかり」はそれぞれ直前の動詞性要素「答える」「こぼれる」を名詞化し、後の「の+名詞」構造を修飾する。「答える準備」「こぼれる愛嬌」が示すように、動詞「答える」「こぼれる」は後ろの名詞を直接に修飾できるが、とりたて助詞「だけ」「ばかり」が付加することによって、名詞に該当する成分になったので、助詞「の」の使用が必要になった。つまり、「だけ」「ばかり」は動詞を名詞化する機能を持っている。

(11) における「しか」は動詞「我慢する」をとりたてているが、とりたてられる動詞を名詞化することができない。コーパスへの観察によると、動詞をとりたてて「しか」の用例は基本的に(11)のような文で、名詞節になる例はあまり観察されていない。

(12) と(13) における「ただ」「単に」はとりたて副詞で、基本的にとりたてられる要素の前方に位置する。「ただ」「単に」は後の動詞をとりたてられるが、(12)のように目的語の位置に現れる時は「の」のような形式名詞が必須である。つまり、「ただ」「単に」のようなとりたて副詞も動詞を名詞化することはできない。

(14) そんなに高くはないし、開発は時間との戦いであるから、やたらと忙しいだけのものである。 (『神戸新聞』)

(15) すさまじいばかりのエネルギーを感じさせる引き締まった体。(『別れの薔薇でなく』)

(16) […] 相手から受け取るよりも少なくしか与えないようにしようと思掛ける。 (『現代経済を学ぶ』)

(17) 逆にいえば、小夜子のような、ただおとなしいだけの女性を、必ずしも最上のものとして評価してはいなかった。 (『漱石の白くない白百合』)

(18) […] 単に痛ましいということだけじゃなくして […] (『国会会議録』)

形容詞をとりたて(14)～(18)では、(14)の「だけ」と(15)の「ばかり」はそれぞれ前の形容詞「忙しい」「すさまじい」を名詞化した。その理由は前例の(9)(10)と同様で、「だけ」「ばかり」によって名詞化された要素は名詞節の機能を果たしているのである。したがって、「だけ」「ばかり」は形容詞を名詞化する機能を持っている。

(16)における「しか」は前方の形容詞「少ない」をとりたてている時、「少ない」は連用形「少なく」に変換され、後の動詞要素「与えない」を修飾する。「しか」は形容詞を名詞化することはできない。

「ただ」「単に」も形容詞をとりたてられる。(17)の「ただ」は「おとなしい」を、(18)の「単に」は「痛ましい」をとりたてているが、それらの形容詞を名詞化していない。とりたて副詞の「ただ」「単に」文では、基本的に「だけ」が共起する。たとえば、(17)では、「ただおとなしいだけ」は名詞節で、直後の「の女性」を修飾している。一見みれば「ただ」は形容詞を名詞化したようであるが、(17)における「だけ」を削除すると、「…ただおとなしいの女性…」となり非文となる。言い換えれば、(17)では、名詞化の機能を果たしているのは「ただ」ではなく、「だけ」である。「ただ」「単に」には形容詞を名詞化する機能を持っていない。

- (19) […] のん気だけが取り柄の何の目的意識もない息子に注ぎ込んだのだから、今から思うと大変に気の毒である。 (『音楽のある知的生活』)
- (20) […] 東京の家屋敷と、箱根、伊東の僅かばかりの不動産を残すほか、全くの無財産となってしまう。 (『私の財産告白』)
- (21) 図版入りの雑誌と図書に現われる何百万という写真のうち、実際に「よい」撮影はほんの僅かしか見つけられない。 (『絵画・写真・映画』)
- (22) ただ確かなのはもはや、逃げて帰る場所すら残されていないという事実なのだ。 (『ドラキュラ公』)
- (23) […]単に優秀だけでなく、その後のジャズ録音に大きな影響を与えたものである。 (『オーディオ道入門』)

(19)~(23)は形容動詞をとりたてる例である。(19)では、「のん気」が「だけ」によってとりたてられ、(20)と(21)では「僅か」がそれぞれ「ばかり」と「しか」にとりたてられる。とりたての際に、名詞化もされている。(22)では「ただ」は形容動詞「確か」をとりたて、(23)では「単に」は形容動詞「優秀」をとりたてている。しかし、名詞節になるためには、形容動詞の後に現れる「なの」や「なだけ」は見逃せない。(22)と(23)が示すように、「ただ」「単に」は形容動詞を名詞化する機能を持っていない。

ただし、「だけ」「ばかり」「しか」は形容動詞を名詞化する機能を持っているが、動詞と形容詞ほど名詞化しやすいのではない。そもそも「だけ」「ばかり」「しか」のような限定とりたて表現にとりたてられる形容動詞の例は極めて少数で、その具体例は表1のとおりである。

[表 1] BCCWJにおける「だけ」「しか」「ばかり」にとりたてられる形容動詞<sup>4</sup>

	だけ	しか	ばかり
件数	41	11	16
形容動詞	好き、僅か、簡単、柔軟、真面目、過激、単独、力まかせ、シルキー、おんなし、優秀、のんき、ビューティフル、大げさ、可能、懸命、安価、真っ黒、良好	僅か、詳、簡略、好き、広大、ノーマル、フカフカ	僅か、アンラッキー、安楽、テクニカル、好き、勝手、シリアス、ボンクラ

表1が示すように、そもそも限定とりたて表現にとりたてられる形容動詞の量は極めて

<sup>4</sup> BCCWJ では形容動詞語幹に相当する部分を形状詞と名付け、一語相当として扱っている。本稿では、形容動詞語幹相当の形状詞を形容動詞相当とみなす。

少数である。それを前提に、「だけ」「ばかり」「しか」の名詞化機能には更に以下の制限が課せられている。まず「僅か」のような少量を表すものが相対的にとりたてやすい。次に、「好き」「勝手」のような人間関係<sup>5</sup>を反映する表現もとりたてられる。また、「柔軟」「簡略」のような名詞性を有する形容動詞も代表的である。「ビューティフル」「ノーマル」のような外来語もたまに見られる。

## 2.2 日本語極端とりたて表現の名詞化機能

日本語極端とりたて表現には、主に「さえ」「まで」「も」がある。

(24) 彼らは、社会進歩の手段として試験の苦行を説きさえした。 (『エリート教育』)

(25) 田中は自分の成功のために仲間を裏切りまでした。

(日本語記述文法研究会(編)2009:98)

(26) 「凶々しい奴だ。まだ逃げもしないでそこに寝てます」と云っていた。

(『昭和文学全集』)

動詞をとりにたてる「さえ」「まで」「も」は、接続において一致を示している。三つの表現はいずれも動詞の連用形に接続してから「する」を補う。(24)では、「さえ」は「説く」の連用形「説き」に接続し、「説きさえした」という形式でとりたてる。(25)と(26)においても、「裏切る」が「裏切り」に、「逃げる」が「逃げ」に変換されてからとりたてられる。このような場合には、動詞は「さえ」「まで」「も」にとりたてられる前に連用形という名詞化の手段が介入されたので、極端とりたて表現の「さえ」「まで」「も」は動詞を名詞化する機能を果たしていない。

(27) 彼女はいつもの、落ち着いた、きびしい、冷たくさえうつる眼付で、あたりを見まわしていた。 (『百年の旅人たち』)

(28) \*マラソンを走り終えた彼女の顔は、美しくまでであった。

(日本語記述文法研究会(編)2009:99)

(29) 一冊の厚くもない本を、三カ年かけてようやく訳了した。

(『胡蝶の夢』)

形容詞をとりにたてる場合、「さえ」と「も」は形容詞の連用形に接続する。(27)では「さえ」は「冷たい」の連用形「冷たく」に接続してとりたてる。(29)では「も」は「厚い」

<sup>5</sup> 仲本(2014)によると、人間関係を表わす形容詞は、「優しい」「厳しい」「真面目な」「親切な」「正直な」など性格や態度を表わす人間関係の形容詞と、「うれしい」「かなしい」「はずかしい」「にくい」「好きな」など感情的な状態を表わす感情形容詞に分類される。

の連用形「厚く」に接続してとりたてる。この場合「冷たく」「厚く」は連用修飾の機能を果たし、「さえ」「も」を付加しても名詞の性質を持っていない。極端とりたての「さえ」と「も」は名詞化の機能を果たしていない。

日本語記述文法研究会(編)(2009:99)によると、極端とりたて表現の「まで」は形容詞をとりたてない。したがって、(28)は非文である。また、BCCWJ コーパスへの観察によると、極端とりたての「さえ」「まで」「も」は基本的に形容動詞をとりたてない。

### 2.3 日本語累加とりたて表現の名詞化機能

日本語累加とりたて表現の「も」は用言性要素をとりたてられる。

- (30) 生きるも死ぬも自分一人だ。 (『土地を活かし人を活かす』)  
(31) シーンで酸いも甘いも嗅ぎ分けてきたプロたちが、「若い」というだけで誰かをリスペクトするなどということは絶対はない。 (『ゲイという「経験」』)  
(32) 彼がアクションだけでなくメローもよくとると考えた”と明らかにした。

(Yahoo!ブログ)

前述した極端とりたて表現の「も」が名詞化の機能を持っていないのとは異なり、累加とりたて表現の「も」は名詞化機能を果たす。(30)は動詞をとりたてる例で、動詞「生きる」「死ぬ」はそれぞれ後の「も」に名詞化され、「生きるも死ぬも」という名詞フレーズの形で主題の機能を働く。(31)における形容詞「酸い」「甘い」もそれぞれ後の「も」に名詞化され、目的語として現れる。

形容動詞も「も」によって名詞化されることがある。(32)の「メロー」は「も」にとりたてられることで名詞化され、「とる」の目的語になる。ただし、コーパスへの観察によると、「も」のとりたてる形容動詞の量は極めて少なく、「好き」のようなものや名詞性を有する形容動詞に限られる。

### 2.4 日本語評価とりたて表現の名詞化機能

日本語の評価とりたて表現には、主に「なんて」「なんか」「など」がある。評価とりたて表現が用言性要素をとりたてる場合には、動詞も形容詞も形容動詞もとりたてられる。

- (33) 私は彼を殴り {なんか/なんて/など} したくない。  
(34) バーゲンなのに全然安く {なんか/なんて/など} ない。



(35) この包丁では、肉を薄くなど切れない。

(日本語記述文法研究会(編)2009:124)

(33)の「殴り」と(34)の「安く」が示すように、評価とりたて表現はいずれも連用形に接続し、その後ろに「する」「ある」「ない」などがつく。また、余り多くはみられないが、(35)における「薄く」のように、日本語の評価とりたて表現は形容詞をとりたてられる。

「新鮮になど作れない」が示すように、形容動詞もとりたてられる。しかし、以上のような例文では、とりたて表現を削除しても、統語的に成立できるので、このような場合では、評価とりたて表現は名詞化の機能を果たしていない。

(36) 楽しいRVをそのまま商売に使うなんか、夢のある話じゃないか。(『FENEK』)

(37) こんな作品に手を染めるなんてばかりしている、という人もいました。

(『ハンマー・オブ・エデン』)

(38) それら俗世の煩惱を振り切らずして、大自然と一体化するなど、到底成しえることではない。(『青嵐の馬』)

(36)では「なんか」によって、「楽しいRVをそのまま商売に使う」をとりたて、話し手が低い評価をしていることが表されている同時に、「楽しいRVをそのまま商売に使う」という動詞性要素が名詞化された。この動詞成分は後ろにある「夢のある話」の評価対象に充当するとともに、夢のある話の同格要素にもなれると考えられる。同様に、(37)では「なんて」で「こんな作品に手を染める」が、(38)では「など」で「大自然と一体化する」が名詞化され、評価とりたて表現のとりたてる要素として現れる。

(39) あたしは、思わずまばたきをした。おかしくなんかないみたい。

(『課外授業はおまじないゲーム』)

(40) 睡眠は五時間半が普通だった。これはもう忙しいなどという言葉でいいつくせるものではない。(『気くぼりのすすめ』)

(41) 子供用のペットボトルだけが持ち込み可能なんておかしすぎます。(Yahoo!知恵袋)

(42) それに、もし見たとしても、おまえに言う必要なんかないだろう。(『キリエの誕生』)

(39)～(42)における形容詞と形容動詞もそれぞれ文中の評価とりたて表現にとりたてら

れている。(39)における「おかしく」は形容詞「おかしい」の連用形で、「ない」を修飾する同時に、評価とりたて表現「なんか」にとりたてられる。この「なんか」は名詞化の機能を果たしていない。(40)における「忙しい」は「など」にとりたてると同時に、名詞化され、「どういう言葉」の同格要素になる。(41)と(42)は「なんて」と「なんか」によって名詞化される形容動詞の例である。名詞化された「可能」と「必要」はいずれも文の主題として現れる。ただし、「なんて」「など」にとりたてられる形容詞と形容動詞の量も少なく、形容詞は「恥ずかしい」「嬉しい」などの感情形容詞と「いい」「正しい」のような評価類形容詞に限られ、形容動詞は「柔軟」「可能」のような名詞性のあるもの、「好き」「可哀想」のような心理表現及び外来語の形容動詞に制限されている。

以上の分析から分かるように、評価とりたて表現による用言性要素のとりたては2種類ある。一つは動詞や形容詞を連用形に変換してから評価とりたて表現を後接させる手段で、この形式のとりたては基本名詞化の機能を持っていない。もう一つは動詞か形容詞を元々の用言性要素を保留するもので、この形式には名詞化の機能がしばしば見られる。

ここまで考察してきたものを、表2の通りにまとめる。

[表2] 日本語のとりたて表現の名詞化機能

	限定					極端			累加	評価		
	だけ	しか	ばかり	ただ	単に	さえ	まで	も	も	なんて	なんか	など
動詞	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○
形容詞	○	×	○	×	×	×	×	×	○	◎	×	◎
形容動詞	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎

(○名詞化機能あり    ×名詞化機能なし    ◎名詞化される要素に制限あり)

表2では、日本語の限定とりたて表現、極端とりたて表現、累加とりたて表現、評価とりたて表現が動詞、形容詞、形容動詞をとりたてるときの名詞化機能がまとめられている。表2が示すように、動詞に対する名詞化が最も見られやすく、限定、累加と評価とりたて表現はいずれも動詞を名詞化する機能を持っている。一方、形容動詞を名詞化できるとりたて表現も多いが、名詞化される形容動詞には、様々な制限が課せられている。極端とりたて表現には基本、名詞化の機能を持っていない。

### 3. 中国語とりたて表現の名詞化機能

#### 3.1 中国語限定とりたて表現の名詞化機能

中国語の名詞化に関する研究には小野(2008)、劉丹青・唐正大(編)(2012)、叙烈炯・劉丹青(2018)などがある。中国語のとりたて表現は、副詞で現れるのが一般的である。典型的な限定とりたて表現には“只”“仅”“光”“净”などがある。本節はこれらの表現を中心に考察を進めたい。

(43) 听到 某人 说 别人 坏话 时 只 微笑。 (微博 BCC)

(聞いた 誰か 話す 他人 悪口 時 ただ 微笑む)

「誰かが人の悪口を言っているのを聞いて、ただ微笑んでいる」

(44) 一年 只 训练 了 三千 个 民兵, 成绩 仅 及格。 (福建日报)

(一年 だけ 訓練 了, 三千 人 民兵 成績 のみ 合格)

「1年に3千人の民兵を訓練しただけで合格のみだった」

(45) 整天 啥 都 不 做、就 是 光 瞌睡。 (微博 BCC)

(毎日 何 も ない する ADV は ばかり 居眠り)

「毎日何もしないで居眠りばかりしている」

(46) 一天天 的 净 丢人 了。 (微博 BCC)

(毎日 助詞 ばかり 恥をかく 了<sub>2</sub>)

「毎日毎日恥をかくばかりだ」

“只”“仅”“光”“净”にとりたてられる動詞は一般的に述語の位置に現れる。(43)～(46)が示すような場合では、“只”“仅”“光”“净”はとりたて副詞として動詞を修飾し、名詞化の機能を果たしていない。しかしながら、“只”“仅”“光”にとりたてられる動詞フレーズが文頭で主題として現れることもしばしばあり、具体的には以下のような構造となる。

(47) a 只/仅/光 微笑 是 不行 的。 (筆者作例)

(だけ 微笑む は だめ 助詞)

「微笑んでいるだけではだめです」

b 只/仅/光 轻轻地 微笑 是 不行 的。 (筆者作例)

(だけ 軽く 微笑む は だめ 助詞)

「軽く笑うだけではだめです」

- c ?轻轻地 微笑 是 不行 的。 (筆者作例)  
 (軽く 微笑む は だめ 助詞)

(47a)を分析すると、“只/仅/光微笑”(微笑んでいるだけ)は主題を提示しており、名詞化されたと考えられる。“微笑”自体には名詞の性質を兼ねているので、名詞化する必要がないとの指摘があるかもしれない<sup>6</sup>。しかしながら、(47b)では、“微笑”が副詞“轻轻地”(軽く)に修飾され、動詞としての動作のプロセスが顕在化する。“只/仅/光”を取り除いた(47c)では、“轻轻地微笑”が文頭に現れても文の容認度が下がり、多少の不自然な語感や曖昧さが生じる。“只/仅/光”が用いられると、文の容認度が高くなり、相当自然な文になる。言い換えれば、とりたて表現を使わなくても、これらの動詞フレーズは主題として現れることができるが、“只/仅/光”の使用で、本来動きやプロセスのあるものを「名詞」として扱いやすくなった。したがって、このような場合では、“只/仅/光”には弱い名詞化機能を持ち、動詞自体の名詞化機能とともに働いていると考える。

- (48) a \*净 微笑 是 不行 的。 (筆者作例)  
 (ばかり 微笑む は だめ 助詞)  
 「微笑んでいるだけではだめです」  
 b 净 傻笑、 不 干活。 (筆者作例)  
 (ばかり ばか笑いをする ない 働く)  
 「ばか笑いばかりして働きをしない」

一方、“只/仅/光”と異なり、動詞をとりたてる場合の“净”は文頭に位置して主題として現れにくいので、(48a)は非文である。(48b)における“净傻笑”は文頭に来る自然な文であるが、後の“不干活”とは並列関係にある動詞節で、文の主題ではない。“净”は連用修飾の機能を果たしている。

つまり、“仅”“光”“净”はとりたてる動詞と合わせて主題の位置に来る場合に、名詞化の機能を果たせるようになる。

- (49) 而 她 的 父亲 也 是 个 只 知道 诚实 的 无能者。(《银河英雄传》)  
 (そして 彼女の 父 も は 一人 だけ 知る 正直 の 無能者)  
 「そして彼女の父親も、正直しか知らない無能者だった」

<sup>6</sup> 中国語学では、動詞と名詞の品詞性についてさまざまな論争がある。本稿では沈家煊(2016)の指摘に従い、ほとんどの動詞は名詞の性質を兼ねていると考える。

- (50) 有 的 时候不 仅 需要 大胆, 还 需要 对方 的 配合。 (微博 BCC)  
 (ある の 時 ない ばかり 需要 大胆さ も 需要 相手 の 協力)  
 「場合によっては大胆さだけでなく、相手の協力も必要だ」
- (51) 光 心细 什么 用? 还 需要 胆大 和 灵巧。 (《妞妞》)  
 (だけ 細心 何 使える も 需要 大胆さ と 器用さ)  
 「細心だけでは使えるもんか。大胆さと器用さが求められる」

(49)では、形容詞“诚实”(誠実)が“只”にとりたてられ、動詞“知道”(知る)の目的語である同時に、“只知道诚实”(正直しか知らない)というフレーズが“无能者”(無能者)の同格要素となる。(50)の“仅”は形容詞“大胆”(大胆)をとりたて、動詞“需要”(要る)の目的語である。いずれも名詞の機能があるが、とりたてて表現を削除しても、統語的機能が影響されない。なぜかという点、“只/仅/光”にとりたてられる形容詞その自体は名詞の性質を兼ねている<sup>7</sup>。この場合には、“只”“仅”は名詞化の機能を持っていない。

一方、(51)の“光”は形容詞“心细”(細心)をとりたて、“光心细”(細心だけでは)は主題として現れる。(52a)のように、“光”を“只/仅”に変えても文は成立できる。

- (52) a 只/仅/光 心细 什么 用? (筆者作例)  
 (だけ 細心 何 使える)  
 「細心だけでは使えるもんか」
- b 只/仅/光 很 心细 什么 用? (筆者作例)  
 (だけ とても 細心 何 使える)  
 「とても細心だけでは使えるもんか」

(52b)では、形容詞“心细”が副詞“很”に修飾され、形容詞の性質が顕在化された。“只/仅/光”を削除すると、文の容認度は“只/仅/光”が付いている時ほど強くないのである。“只/仅/光”の機能で、形容詞が名詞として取り扱いやすくなった。つまり、動詞をとりたてるときと同様に、限定とりたてて表現の形容詞フレーズは主題として現れるときも、限定とりたてて表現には弱い名詞化の機能を持っている。ただし、前述したように、とりたてられるのは名詞の性質を有する形容詞に限られる。

“净”は形容詞をとりたてにくいので、名詞化の機能を果たすこともない。

<sup>7</sup> これらの形容詞は、中国語の品詞研究においては“兼类词(形容詞の性質と名詞の性質を兼ねる品詞)”と見なす観点が多い。

### 3.2 中国語極端とりたて表現の名詞化機能

中国語では、“连…都”“连…也”が中心で、極端とりたて表現の機能を果たしている。

(53) 最后 大家 争先恐后 地 交 钱, 连 反抗 都 忘 了。 (微博 BCC)

(最後 みんな 先を争う 助詞 払う 金 PREP 抵抗 さえ 忘れた 了2)

「最後、みんな先を争ってお金を払い、抵抗することさえ忘れてしまった」

(54) […]连 折磨 也 是 一种 幸福。 (微博 BCC)

(PREP 苦しめる も は 一種 幸福)

「苦しめるのさえも幸福の1種だ。」

(53)では、“连…都”によって動詞“反抗”がとりたてられ、“忘”の目的語として現れる。(54)では、動詞“折磨”が“连…也”によってとりたてられ、主題として出現する。

(55) 假如 连 勇敢 都 失去, 就 只有 顾影自怜! (微博 BCC)

(たとえ PREP 勇敢さ さえ 失う ADV しかない 自分を哀れむ)

「勇敢ささえ失ったら、自分を哀れむしかない」

(56) a 连 琐碎 也 会 觉得 幸福。 (微博 BCC)

(PREP 些か さえも 助動詞 感じる 幸福)

「些細なことさえも幸福を感じられる」

b \*琐碎 会 觉得 幸福。 (筆者作例)

(些か 助動詞 感じる 幸福)

(55)では、“连…都”によって、形容詞“勇敢”がとりたてられ、“失去”の目的語として現れる。(56)における形容詞“琐碎”は一般的に、“觉得”の目的語として出現するが、極端とりたて表現文では、“连…也”のとりたてによって形容詞が前置され、文の主題となる。

動詞と形容詞が“连…都”“连…也”にとりたてられる時、基本的にとりたて文の文頭に現れる。主語として現れるのはそもそも文頭に位置するが、目的語として現れる場合は、文頭に移動させる。

“连…都”“连…也”にとりたてられる動詞と形容詞も名詞の性質を有しているが、“连…都”“连…也”を削除すると、動詞の場合は容認度が低くなり、形容詞の場合では、文が成立できないことがある。例えば(56b)のように“连…也”を削除すると、“连…也”によって顕在化された“琐碎”の名詞性もそれにつれて失う。文には主題マーカーがなくなったので、(56b)は非文で、成立できない。つまり、“连…都”“连…也”は顕著な名詞化

の機能を持っている。

極端とりたて表現により名詞化される形容詞にも一定の制限が課せられ、“激动”“伤心”“沉默”など、心理状態にかかわるものが多い。

### 3.3 中国語累加とりたて表現の名詞化機能

中国語累加とりたて表現では、主に“也”が機能を果たしている。

(57) 睡 不 好 觉， 吃饭 也 不 香。 (福建日报 1982)

(寝る ない よい 寝る 食事 も ない 美味しい)

「よく眠れないし、ご飯もおいしく食べられない」

(58) 文明 从 错误 开始， 成功 也 是。 (《少年铁手》)

(文明 から 誤り 始まる 成功 も は)

「文明は誤りから始まり、成功も同様だ」

(59) a 好好 说话 也 不 被 理解。 (微博 BCC)

(ちゃんと 話す も ない 受け身 理解)

「ちゃんと話しても理解されない」

b \*好好 说话 不 被 理解。 (筆者作例)

(ちゃんと 話す ない 受け身 理解)

累加とりたて表現の“也”によって、(57)では、動詞“吃饭”がとりたてられ、(58)では形容詞“成功”がとりたてられている。とりたてられる要素はいずれも文の主題として現れ、いずれも名詞の性質を持っている。しかし、(59a)では、動詞“说话”は副詞“好好”に修飾され、顕著な動詞の性質が見られる。“也”を削除した(59b)は非文であるように、“也”も弱い名詞化機能を持っている。“也”に名詞化された形容詞は“幸福”“善良”“大”のような性質形容詞に限られる。

### 3.4 中国語評価とりたて表現の名詞化機能

用言性要素へのとりたてについて、中国語の評価とりたて表現も以下のように動詞、形容詞をとりたてる。

(60) 有 些 年轻 姑娘， 就 想 傍大款、 追星 什么的，

いる 幾らか 若い 娘 副詞 考える 金持ち依存 スターの追っかけ なんて

掉 进 钱眼 里 爬 不 出 来。  
 落ちる 入る 金の目 中 登る ない 出る 来る  
 「金持ち依存やスターの追っかけなんかしか考えない拝金の若い娘がいる」

(『报刊精选』)

(61) 什么 改善民生, 我 怎么 知道!  
 なんて 民生を改善する 私 もんか 分かる

「民生を改善するなんて、私にはわかるもんか」 (微博 BCC)

(62) 暗地里 准是 在 做 些 什么 走私 之类的 买卖。  
 裏 に違いない ている やる 幾らか なにか 密輸 の類の 商売

「裏では密輸のような商売なんかしているに違いない」 (『仅当了一天的杀手』)

動詞をとりたてる例文を観察すると、(60)における“傍大款、追星（金持ち依存やスターの追っかける）”、(61)の“改善民生（民生を改善する）”、(62)の“走私（密輸する）”はいずれも名詞の性質を有する動詞という点ではほかのとりたて表現と共通している。

ところが、複雑成分をとりたてるなどの場合では、以下のように、まれに動詞と形容詞をとりたてることもある。

(63) 一 升级 百里屠苏 的 名字 就 冒出来 什么的...总觉得 好 想 吐槽。

(と 更新 人の名前 の 名前 は 出てくる なんて なんだか よく 思う からかく)

「更新すると百里屠蘇の名前が出てくるなんて…なんだからかいたくなる」

(微博 BCC)

(64) 嗓子 喊 哑 什么的, 谁 信 啊。

(のど 叫ぶ 声がかれる なんか だれ 信じる か)

「叫んで声がかすれているなんて、誰が信じるものか」

(筆者作例)

(63)(64)では、動詞性要素“百里屠苏的名字就冒出来”、“嗓子喊哑”が「なんか」にとりたてられる。動名詞と異なり、“冒出来(出てくる)”“喊哑(叫んで声がかれている)”は名詞として使えない。これらの動詞構造には「動詞+結果補語」の特徴がある。“出来”は“冒”の結果で、“哑”は“喊”の結果である。さらに分析すると、“百里屠苏的名字就冒出来”は述語動詞“吐槽”の目的語で、“嗓子喊哑”は動詞述語“信”の目的語である。それらの動詞句は目的語に充当できるのは、“什么的”にとりたてられてはじめて備



えたのである。言い換えれば、“什么的”はそれらの動詞補語構造を名詞化した。ただし、中国語の評価とりたて表現のとりたてる動詞の中で、このように名詞化されるのは少なく、「動詞+結果補語」構造に限られるようである。つまり、動詞性要素に対して、中国語の評価とりたて表現は弱い名詞化機能を持っている。

- (65) 克服 轻率 之类的 不良 心态。  
 克服 軽率 なんかも 不良 気持ち  
 「軽率なんかも不良な気持ちを克服する」 (科技文献)
- (66) 什么 浪漫, 什么 情调, 都是 狗屁。  
 なんかも ロマンチック 何か 情緒 何もかも くそ  
 「ロマンチックや情緒なんて、何もかも下らぬことだ」 (微博 BCC)
- (67) 至于 幸福 之类的, 先 不 去 想 了。  
 に至って 幸せ なんかも まずは ない 行く 考える 了2  
 「幸せなんてまずは考えないでおこう」 (微博 BCC)

中国語評価とりたて表現にとりたてられる形容詞は(65)の“轻率(軽率)” (66)の“浪漫、情调(ロマンチック、情緒)”、(67)の“幸福(幸せ)”である。これらの形容詞の特徴は物事の性質や状態を描く機能と同時に、その性質や状態自体を命名する機能を果たせる。それ故、名詞の性質も有している。例えば、(65)における“轻率”は“其他的(かれの)”に修飾されることができ、典型的な名詞用法である。つまり、中国語評価とりたて表現にとりたてられる形容詞も名詞の性質を有するものに限られる。

ここまでの考察をまとめると、表3の通りである。

[表 3] 中国語とりたて表現の名詞化機能

	限定				極端		累加	評価		
	只	仅	光	净	连…都	连…也	也	什么的	什么	至于…什么的
動詞	△	△	△	×	△	△	△	△	△	△
形容詞	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎

△弱い名詞化機能あり ×名詞化機能なし

◎弱い名詞化機能と同時に名詞化される要素に制限あり

以上の分析から明らかになったのは、中国語のとりたて表現も用言性要素を名詞化する機能を持っている。ただし、とりたてられる動詞は名詞の性質を持っているので、名詞化の機能は顕著ではない。副詞に修飾される動詞フレーズで実際に分析すると、とりたて表現を使わない場合では、名詞性を失うことで主題としての機能が影響されることがある。したがって、中国語のとりたて表現は動詞に対し、弱い名詞化機能を持っていると考えられる。形容詞の場合では、中国語とりたて表現に名詞化される形容詞は名詞の性質を有していると同時に、量が少なく、種類も限られている。

総じて言えば、中国語のとりたて表現は日本語のように大量の動詞や形容詞を名詞化できないので、名詞化機能は日本語ほど高くないと考えられる。

#### 4. とりたて表現に関連する名詞化のタイプと優先性

##### 4.1 名詞化のタイプ

本節では、日中両言語のとりたて表現に関連している名詞化のタイプを分析する。主に語彙的名詞化と統語的名詞化という二つのタイプから論じる。とりたて文における名詞化について、本稿は、用言性要素自体が連用形に変換されるか名詞性が顕在化されるものを語彙的名詞化と呼び、名詞化辞か形式名詞の付加が必要なタイプは統語的名詞化と呼ぶ。

(68) 会ってから、喫茶店探しだけで、かなり時間がたっている。 (例文(3)の再掲)

(69) 観るだけで十分であって、作者のことを考えるのは余計なことなのだ。  
(『おバカさんの自叙伝半分』)

(68)(69)は同じく「だけ」によってとりたてられる動詞の例である。(68)の動詞自体はとりたてられる前に動詞の連用形という語彙的名詞化手段で完全に名詞化された。つまり、語彙的名詞化のタイプである。一方、(69)の動詞自体には変化なく、「だけ」によって名詞化された。「だけ」は名詞化辞の機能を働いており、統語的名詞化と考えられる。

(70) 自分が疲れてたら、人にやさしくなんてできない。 (例文(5)の再掲)

(71) その頃は苦しいなんて思ったことないですよ。 (『快女・快男・怪話』)

(72) だからといって面倒臭いことや難しいことなんてありはしません。  
(『正しいドブ洛克「役人ごろし」の作り方』)

(70)(71)(72)は「なんて」のとりたてる例である。同じく、形容詞に対するとりたてであ

るが、(70)では形容詞連用形が用いられ、語彙的名詞化である。(71)ではとりたて表現「なんて」、(72)では形式名詞「こと」によって名詞化機能を働く。つまり、統語的名詞化というタイプである。

ここまで明らかになったのは、日本語とりたて文における名詞化について、語彙的名詞化と統語的名詞化という二つのタイプがあり、かつ、二つの種類が併用されない。連用形が機能を果たす時、形式名詞などの統語的名詞化手段を使わない。例えば、極端とりたて表現「さえ」「まで」「も」は連用形名詞に接続して、名詞化の機能をもっていない。

一方、中国語とりたて表現にも語彙的名詞化と統語的な名詞化両方存在している。とりたてられる動詞も形容詞も名詞の性質を有しているので、語彙的名詞化が必ず機能する。しかし、中国語とりたて表現の語彙的名詞化には形態的標示がなく、顕在化されにくいことがあるので、とりたて表現による統語的名詞化という補助は義務的に要求される。場合によっては、とりたて表現に名詞化辞“的”が付加され、統語的名詞化機能が強化されることもあり、具体は以下の評価とりたて表現に見られる。

- (73) a 遺憾 什么的， 还是 少 点 好。 (微博 BCC)  
 (遺憾 なんて やっぱり 少ない ほう いい)  
 「遺憾なんて、少ないほうがいい」
- b ? 什么 遗憾， 还是 少 点 好。 (筆者作例)  
 (なんて 遺憾 やっぱり 少ない ほう いい)  
 「遺憾なんて少ないほうがいい」
- c 遗憾 之类的， 还是 少 点 好。 (筆者作例)  
 (遺憾 なんて やっぱり 少ない ほう いい)  
 「遺憾なんて少ないほうがいい」
- d \*遗憾 之类， 还是 少 点 好。 (筆者作例)  
 (遺憾 の類 やっぱり 少ない ほう いい)  
 「遺憾なんて少ないほうがいい」

(73a)の評価とりたて表現“什么的”には、名詞化辞“的”<sup>8</sup>が付加している。“的”の付加していない(73b)より、(73a)の主題としての機能が顕著であるとともに、文の容認度も高い。名詞化辞“的”の付加で、“什么”の名詞化機能が強化された。とりたてになれない非文

<sup>8</sup> 朱徳熙(1961)は、構造助詞の“的”を 3 種に分類し、名詞性接尾辞は“的 3”で、“的”を伴う判断文と指摘している。

の(73d)における“之类”より、(73c)における“的”の付加される“之类的”の名詞化機能が高い。

日中両言語とりたて表現の名詞化の種類を比べると、語彙の名詞化について、中国語の場合では、その語彙自体には名詞の性質を有するものが主である。日本語の連用形、名詞化辞と形式体言による名詞化は形態的に有標であるのと対照的に、中国語の語彙の名詞化は形態的に無標である。したがって、語彙の名詞化による名詞化のプロセスは顕在化しにくい。日本語は語彙の名詞化か統語的名詞化を用いるが、中国語は統語的名詞化の補助が要求され、基本的に語彙的名詞化と統語的名詞化を併用する。

#### 4.2 名詞化種類の優先性

Nishimaki (2018)、西牧 (2019) では、競合理論という考え方が指摘されている。「競合理論によると、形態部門と統語部門は、形態統語構造の音韻具現を巡って競合し、その結果、言語間の相違が生じるという。従って、言語は形態部門での構造具現を優先する形態優先言語と統語部門での構造具現を優先する統語優先言語に大別されることになる」。Nishimaki (2018)は、日本語と英語の名詞句を観察して、英語を統語優先言語、日本語を形態優先言語と分析している。

前述の 2.2 節で論じたように、日本語の極端とりたて表現は名詞化の機能を持っていない。動詞にしても、形容詞にしても、用言性要素がとりたて表現にとりたてられる前に、連用形に変換された。連用形名詞という形態的名詞化手段が働き、とりたて表現からの名詞化は要求されない。ここから分かったのは、少なくとも極端的とりたて表現においては、統語的な手段がなく、形態的な名詞化手段が優勢である。

また、「探しだけ」「よくも悪くも」「おいしくなんか」のように、限定とりたて表現にも、累加、評価とりたて表現にも、形態的名詞化手段が存在している。日本語とりたて表現の名詞化は形態優先であると考えられる。

一方 4.1 節で述べたように、中国語の用言性要素からの語彙的名詞化は、形態的に無標である。名詞化の要求は統語的手段に依存しやすい。その理由の一つとしてあげられるのは、中国語とりたて表現はとりたてる要素を前に移動させる(前移)という統語的な手段を強く要求することである。とりたてられる用言性フレーズを前に移動させるにつれ、とりたて表現の名詞化機能も顕在されやすくなる。

(74) a 听到 某人 说 别人 坏话 时 只 微笑。 (例文(43)の再掲)  
 (聞いた 誰か 話す 他人 悪口 時 ただ 微笑む)

「誰かが人の悪口を言っているのを聞いて、ただ微笑んでいる」

- b 只 微笑 是 不行 的。 (例文(47a)の再掲)  
 (ただ 微笑む では だめ 助詞)  
 「ただ微笑むだけではだめなんだ」

(74a)では、限定とりたて副詞の“只”は述語動詞“微笑(微笑む)”を修飾する同時にとりたてており、名詞化の機能をはたしていない。一方、(74b)では、“只微笑”という動詞フレーズは文頭に位置して、文の主題として現れる。文頭に位置するという統語的な手段は“只微笑”の名詞化に大きな役割をもっている。

限定とりたて表現だけではなく、中国語の極端とりたて表現と評価とりたて表現も前移という統語的な手段に対する依存性が高いのである。特に目的語の場合では義務的に文頭に移動させる。

- (75) a 嗓子 喊 哑 什么的, 谁 信 啊。 (例文(64)の再掲)  
 (のど 叫ぶ 声がかれる なんか だれ 信じる か)  
 「叫んで声がかすれているなんて、誰が信じるもんか」  
 b 什么 嗓子 喊 哑, 谁 信 啊。 (筆者作例)  
 (なんか のど 叫ぶ 声がかれる だれ 信じる か)  
 「叫んで声がかすれているなんて、誰が信じるもんか」  
 c 谁 信 啊, 嗓子 喊 哑 了。 (筆者作例)  
 (だれ 信じる か のど 叫ぶ 声がかれる 了2)  
 「誰が信じるもんか、叫んで声がかすれている」

名詞化の度合いについて、(75a)は最も高いと考えられる。(75c)では、動詞フレーズの“嗓子喊哑”は文末に位置して、“信”の目的語としての主述構造である。とりたてられることもなく、名詞化もされていない。(75b)では、“嗓子喊哑”は評価とりたて表現の“什么”にとりたてられる同時に義務的に文頭に移動されることを通して、名詞化された。(75b)より、(75a)における評価とりたて表現には“的”が付いているので、名詞化の度合いがさらに高くなった。

文頭への移動と名詞化辞“的”の付加はいずれも統語的な手段なので、中国語とりたて表現の名詞化は統語優先であることの証拠になれる。日本語の方はまれに前移できるものもあるが、義務的に要求されない。

## 5. まとめ

本稿は日中両言語のとりたて表現の名詞化機能に関連する要素を分析し、両言語の名詞化機能における共通点と相違点を明らかにした。詳細は以下の表 4 でまとめる。

[表 4] 日中両言語のとりたて表現に関する名詞化の対照

	日本語	中国語
分布	限定とりたて表現（とりたて助詞に限られる） 累加とりたて表現、評価とりたて表現	限定とりたて表現、極端とりたて表現 累加とりたて表現、評価とりたて表現
名詞化の種類	語彙的名詞化は形態的に有標である 語彙的名詞化と統語的名詞化が単独で機能を果たせる	語彙的名詞化は形態的に無標である 語彙的名詞化と統語的名詞化が義務的に併用される
優先性	形態優先である	統語優先である

総じていえば、日本語極端とりたて表現を除き、日中両言語のとりたて表現はいずれも名詞化機能を持っている。ただし、中国語のとりたて表現は日本語のように大量の動詞や形容詞を名詞化できないので、名詞化機能は日本語ほど高くないと考えられる。

日本語においても中国語においても、とりたてられる形容詞や形容動詞に一定の制限が課せられている。それらの形容詞や形容動詞は、意味上では、人間関係を反映するものが多い。統語上では、形容詞や形容動詞の性質とともに、名詞性を有するものが多い。

名詞化のタイプについては、両言語とも語彙的名詞化と統語的名詞化があるが、日本語は形態的に有標であるのと対照的に、中国語は形態的に無標である。また、日本語の名詞化は形態優先である一方、中国語は統語優先である。

本稿では、日中両言語のとりたて表現の名詞化機能の有無を影響する要因及び各種類の名詞化の度合いはまだ解明されていない。今後の課題としたい。

## 言語資料

本稿の例文は、先行研究から引用または筆者が作成したものを除き、BCC・BCCWJ・CJCSから引用したものである。

## 略語

ADV 副詞

PREP 前置詞

了1: 過去の出来事としての動作・行為の完了を示す

了2: 新しい状況の発生や状況の変化を示す

## 参考文献

### 日本語で書かれた参考文献

小野秀樹(2008)『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』白帝社

鄭聖汝・柴谷方良 (編)(2021)『体言化理論と言語分析』大阪大学出版会

鄭聖汝(2021)「体言化と名詞句用法標識の關係:韓国語 kes の歴史的展開を中心に」大阪大学大学院文学研究科紀要(61)p175-209

鄭聖汝・柴谷方良 (編)(2021)『体言化理論と言語分析』大阪大学出版会

仲本康一郎 (2014)「現代日本語の形容詞の意味分類」『山梨大学教育人間科学部紀要』(16)83-91

西牧和也 (2019)「名詞化における「非顕在的具現」と「顕在的具現」の対立 「形態的有標性の仮説」に基づく日英語比較」日本英文学会東北支部第 73 回大会予稿集

日本語記述文法研究会 (編)(2009)『現代日本語文法 5』くろしお出版.

福田嘉一郎・建石始 (編)(2016)『名詞類の文法』くろしお出版

益岡隆志(1997)『複文』くろしお出版

松瀬育子(2021)「『名詞化辞』の研究動向と課題」岩男考哲・ほか (編)『名詞研究のこれまでとこれから』くろしお出版 P128-155

劉丹青・唐正大 (編)(2012)「名詞性短语的类型学研究」商務印書館. 山田留里子・他(訳)  
(2016)『中国語名詞性フレーズ類型学的研究』日中言語文化出版社

### 中国語で書かれた参考文献

沈家煊 (2016)『动词和名词』(中国語文法問題分析)商务印书馆.

朱德熙 (1961)「说“的”」(“的”論)『中国語文』1961年12期

叙烈炯・劉丹青 (2018)『话题的结构与功能』(話題の構造と機能)上海教育出版社.81-87.

### 英語で書かれた参考文献

Nishimaki, Kazuya (2018) *A Study on Cross-Linguistic Variations: New Proposals Based on Competition Theory*, Kaitakusha, Tokyo